

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和5年度第3回相模原市食育推進委員会		
事務局 (担当課)		健康福祉局保健衛生部健康増進課 内線(5622)		
開催日時		令和5年11月27日(月)午後1時30分～3時00分		
開催場所		ウェルネスさがみはらB館4階 会議室1・2		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	9人(保健衛生部長、地域保健課長、健康増進課長、農政課長、学校教育課指導主事 他4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	—
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開 会 2 議 題 (1)「第3次相模原市食育推進計画」の進行管理について ア 令和4年度食育関連事業実施評価結果について(資料1・資料2) イ 令和5年度食育関連事業実施計画について(資料3) 3 その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

(以下、堤会長による進行)

本委員会の公開について委員の承認を得た後、出席者が定足数に達していることを確認し、議題が進行された。

2 議題

(1) 「第3次相模原市食育推進計画」の進行管理について

事務局より、資料1～3に沿って令和4年度食育関連事業実施評価結果及び令和5年度食育関連事業実施計画について説明を行った。

【委員からの意見】

(今委員) 資料1の1ページの「中学校給食献立募集事業」という事業について、中学校が全部で36校ある中で、参加した学校数は少ないが1校当たりで提出された献立数は多いという結果だったということだが、それは多いといえども多いかもしれないけど偏っているということじゃないかと受けとめている。それはどこで差がついていると思われているのか。この応募をした学校が6校というのは、センター給食の学校とデリバリー給食の学校との偏りがあったかのかが知りたいと思った。

(堤会長) 今のことに関連して、その36校に向けてこの中学校給食献立募集事業についてどういう方法で周知したのか。この事業について、周知の方法を見直すことにより、もっと応募数が増える可能性もあるため、市の方でこの「中学校給食献立募集事業」があることを、中学校36校にどのように伝えたのかを聞きたい。

(事務局) 今事務局としてこちらの資料にある内容からお答えしているため、学校の内訳や、各中学校への周知方法については、学校給食課に確認する必要がある。

(中村委員) おぼろげな記憶で申し訳ないが、うちの子どもが中学生のときに、この「献立を募集します」というチラシが配られたような気がする。それ自体はチラシが配られただけで終わってしまい、おそらく学校の先生方によって、そこをやってみようという先生がいる学校か、そうではなくてチラシの配布という形の学校かの違いかと思う。あとその給食が決まったときに、どこの中学校の誰々さんが、こういう献立を作成しましたという用紙も子どもたちには配られたと思う。

子どもたち自身はそういう募集があつて、こういうふうが決まったとい

うのはわかっているのではないかと思うが、あとはやはり各中学校がかける時間の采配ではないかと思う。ある中学校は配られて、ある中学校は何も知らないということはおそらくはないかと思う。大分前の話なので、変わっているかもしれないが参考までにと発言した。

(事務局) 一般的に市が学校に事業を知らせる時は、基本的には、市から校長宛の事務連絡という通知を出すため、おそらく教職員や生徒宛のチラシも一緒に配布されたものだと思う。学校によって意識の違いというか、学校として一生懸命やってみようというところもあれば、そこまでではないというところもあって、その温度差の違いがおそらくこの校数に出たのかと思う。また、今委員のお話で、デリバリーとセンター方式、その辺の違いもおそらくあるのかと思うと、この6校の給食の提供方法がどうなっているかということは、確かに大きなところだと思う。

事務局として確認ができていなかったが、今後、事業継続するにあたっては教育委員会と連携しながら、どんな学校がどんな意識を持ってやっているのかをよく調べて、結果としてまとめていきたいと考えている。

(※会議終了後、「中学校給食献立募集事業」の内容詳細を事業担当課である学校給食課に確認。実施対象はデリバリー給食実施校(30校)、各学校宛の事務連絡・資料の送付及び、食育担当者会議や食育ネットワークグループ会議等で周知を図っている。)

(堤会長) 来年度以降事業の募集をするときに、学校に「多くの方に応募をお願いしたい」とだけ依頼するのではなく、例えば「技術・家庭科の授業等で取り上げるなど、先生のご協力も得られるとありがたい」など具体的な内容まで踏み込んだ方が、校長から家庭科や技術の先生に声をかけようかということになり、家庭科や技術の先生が自分の授業の中でも生徒に言ってみようかということになって、より応募者が増えると思う。依頼の通知に言葉を足して、募集に対しての協力を得るようにすると、さらにこの食育の事業が進んでいくのではないかと色々なご意見を伺っていて思った。

(今委員) 給食関連のところで、3ページのSDGs給食は小・中学校21校に提供するとあるが、それがどのように決まっているのか、今後も継続実施予定とあるので、これは学校をずらして、満遍なくやっていくような形で考えているのか。これも中学校だと「給食センター受入校でカレーを提供」とあり、デリバリー校では実施されていないので、市全体の取組にならないのが少し残念だと思う。質問というか意見として伝えた。

また、7ページの「学校給食における地場農産物の使用拡大に向けたモデル事業」について、最近有機栽培米をどこかの給食で提供するというのを見たが、市として有機食材を給食へ取り入れていこうという方針がある

のか。

(事務局) 今委員からご質問のあった件については、令和4年度に有機農業により栽培されたお米を給食に取り入れ、田名小で2回提供したという実績がある。

まずなぜ田名小かというと、栽培農家の方々が田名地域の方ということで、生産量や、そうしたお米は金額的にも少し高くなるため、実際に提供できるようにするために条件があったということである。まずはご自分が栽培されている田名地域の小学校に給食として2回出そうということで、取り組まれたと承知をしている。

金額的な話で言うと、通常の給食費からの予算をどうしても超えるため、その部分で農業の方のサイドで持っているお金から、上乘せの金額を賄うなどしている。また有機農産物は定義が定められており、今回のお米も厳密に言うと、有機米ではなく、限りなく有機栽培に近いやり方で作られたお米を提供したということである。

また、資料にある「地場野菜の拡大」に関しては、有機農産物とは別の流れとなっている。地域の農家の方がぜひ自分たちが地域で作った野菜を食べて欲しいという動きがあり、以前は流通の関係などでスムーズにいかないところがあったが、そこを市場関係者や小売店などと調整をして、地域の野菜を出そうという取組が始まった。まずは玉ねぎからということで始まって、今後少しずつ品目も増やしていこうと取り組まれているという状況である。

(事務局) 本日欠席の北島委員からも事前にご質問をいただいている。

まず「実施事業の周知方法と実施場所の確認」として、「情報キャッチのしやすさ」や、「実施場所の工夫」、「イベント等の活用」の現状について質問があった。

「情報キャッチのしやすさ」については、現在多くの事業は市のホームページや広報紙、地域情報紙への掲載やSNSへの発信、学校や公共施設へのチラシ等の配架が基本的な周知方法である。今年度からの新たな方法としては、電子母子健康手帳アプリ「さがプリコ」という乳幼児の保護者の方向けのアプリから「ふれあい親子サロン」「母と子の栄養相談」「ハローマザークラス」「離乳食教室」「親子で歯っぴいちゃれんじ大作戦！」といった事業の申し込みができるようになったと聞いている。導入後は申し込みも増えているということなので、今まで情報が届かなかった方にも、こういった形で情報が届くようになったという現状がある。

「実施場所の工夫」としては、様々な事業があるため一律ではないが、ウェルネスさがみはら及び南区・緑区の拠点施設や、公民館やこどもセン

ターなどの地域の施設等で実施している。

「イベント等の活用」については、今年度は健康フェスタという事業の中での食育講演会の開催や、農業まつりへの食育ブース出展など、大きなイベントの中で食育に関連する内容を実施し周知を図っている。

また、北島委員からは「各事業について、担当課単独ではなく関連する事業を一緒に実施することで継続につなげることはできないか」というご意見もいただいている。

先ほどの農業まつりの例のように、様々なイベントにブース出展を各課が行うなど、関連事業を一緒に実施することは、様々な方に情報提供できる場となるため、次期計画に向け、このような連携についても食育の関係課の中で、話し合っていきたいと考えている。

(中村委員) 先ほどの情報キャッチに関して、私も広報紙などでよく目にする事業がここに書かれていると思うが、知っている人は知っている、知らない人がこぼれてしまうという状況について、その人達をどうやって拾っていくのかとなると、やはりその人の懐に入るようにするのがなかなか難しいのが現状だと思う。

事業もかなり数が多いので、現実的にできるかどうか分からないが、相模原の防災メールのように、震度や自分の地域などをチェックボックスで選択できるような仕組みと同じようなものを作って、その対象者が自分の興味のある事業にチェックを入れて登録すると、それに対するメールが自分の携帯に来るといようなものがあると良いのではないかな。膨大なものなので、実現できるかは現実的には難しい話だと思うが、やはり携帯の所持率もかなり上がっており、スマホで検索することは苦手な方でも、メールを登録して、来たメールを読むというのは、年配の方でもできやすいかと思う。

最初の設定は難しいので、どこかの場所で登録ができる形を当初とり、その後定期的にメールでの情報が流れてくれば「今日は体調が良いから参加してみようかな」とか、「事前の登録をするために電話してみようかな」などと思うのではないかな。私は歯科医院に勤めているが、忘れてしまうのでカレンダーに書いておくという高齢者の方が多い。携帯等にメールが来れば、またより一層、対象者に向けての情報が得やすく、届きやすくなると思う。現実的にはなかなか難しい部分もあるかと思うが、そういったものがあると、私自身も忘れていたものが携帯を見てそこで情報が入ってくるので、参加しやすいと思った。

(今委員) 中村委員の意見について私も同感であり、より周知されると良いと思っている。例えばサガピーという食育推進のキャラクターで SNS のアカウン

トを作って発信するなど、常日頃からもっとこのキャラクターが活用されると良いと思っている。

(堤会長) その辺、事務局の方は実現可能性としては、そういうことができるものなのか。

(事務局) サガピーのアカウントではないが、健活 Facebook などに登場している。しかし、今の話を伺うと周知が十分にできていないため、食育キャラクターを活用して様々な方の目に触れるような方法を検討し、これからよりアピールしていけたらと考えている。

今出た周知の話だが、やはり多くの方に食育の大切さ、それから市がやっている事業のことを広く周知していくことは非常に重要と考えている。今、メールや SNS というお話もあったが、市では、保健所メールというもので、防災メールと同じようなカテゴリでの情報発信をしているが、今は比較的コロナウイルス感染症やインフルエンザなど、緊急対応的な情報が多くなっているため、コンテンツの中で、少しソフト的なものが発信できるかどうか、検討していきたいと考えている。また、健康増進課で健活 Facebook も運用しているが、その中でサガピーを含め、より良い周知ができる方法をしっかり検討していきたいと考えている。

また有機野菜や、小中学校の給食という話も出たが、食育の事業は保健所だけでは実施できないため、教育委員会や農政部門、食品ロス等のごみ減量のセクションとの連携も必要となるが、引き続き庁内連携を図りながら、食育全体として事業が推進するよう進めて参りたい。

3 その他

(堤会長) 本日は最後の審議会ということで、各委員から一言ずつコメントをいただきたい。

(松井委員) 先ほど、前回の会議の中でもあったが、情報発信を推進したということが結果としてどう出るかというところを正直知りたいと思っている。どのようにアプローチしてどのような結果が出たのかという最終的な結果を、1年後でも聞けたら良いと思った。

(田中委員) 様々な事業が展開されていて、それぞれ数値目標が一定程度あって、評価されたということをよく理解できた。そういう方向性がきちんと見えていく中で、さらに「望ましい食習慣の形成を推進します」とか、また「食を通して心身ともに健康に暮らす」などの目指す姿があるので、その辺が明確に変化したということがわかるようになっていけば良いのではないかと感じた。

あともう1点は、今後保健医療計画などと合体するが、そのときにこう

いった事業が他の事業とどのように関連して、そしてどのように評価していくのかという時に、食育という家庭生活の中を中心とした食生活と、あと環境と農業と、そして健康という複合的なものを上手く組み合わせて、きちんと市民の方々に役立っていくような形になれば良いと感じた。

(平本委員) 食は何かすごく難しいというか、あまりに当たり前すぎて、皆さん却って興味がないのか、そこまで考えてないのかもしれないという気がした。物が溢れていて、いつでも好きなもの食べられるという世の中なので、そこから食育と言われても僕も個人的にも少し思ってしまったところがあるので、世の中全体でもっと考えていった方が良いことなのかもしれないと深く感じた。

(江藤委員) わかな会としては活動が60年目だが、今年までずっと食育を続けてきて、わかな会が関わったところがすべてA評価をいただいているので、本当にうれしく感じている。ただ、本当に今後これが来年以降続けられるのかというと、わかな会だけではできないというのが現状なので、いろんな先生方や市の協力もいただいて、少しずつでも細く長く続けていくということがとても大事だと思っている。

(佐藤委員) 食という、すごく個人と社会のいろいろと複雑に絡み合ったものを、皆さんに届けられるかどうか、新型コロナウイルス感染症の影響で止まってしまっている活動もあるが、そういった中で、いろいろな皆さんに広げていくことを、どのようにやっていくのかというのが今後の課題だと感じている。

(長瀬委員) 地域で、高齢の方などに食に関する話をするときには、食事は皆さん食べるので、当たり前と思って知識を持っていない方もいて、話をすると初めて聞いたという反応もある。食は当たり前のことだが、正しい知識が本当に広がっているのかと考えると、まだ正しい知識や方法を、皆さんに提供する必要があるのでないかと感じている。生まれたてのころから高齢の方まで、食に関する知識を提供できるようにしたほうが良いと常々感じているし、やはり食によって身体だけではなく、心にも影響するため、食事の大切さや安全な食に関して、安心して食べられる食の提供ができるような社会づくりが本当に必要だと思っている。相模原市が本当に心身ともに健康な方ばかりになるように、食育に力を入れていって欲しいと思う。

(藤木委員) 私立の保育園連盟から参加しているが、やはり食の基本というのは、離乳食から本当に始まるのではないかと感じている。そんな中で保育園、幼稚園の保護者の方にどうアプローチしていくか、ここが大事だと思っている。資料を見ると、どうしても裾野を広げてしまうと、統計が取りづらいからだと思うが、その保育園は公立の保育園の取組が主に記載されてい

て、我々民間の保育園の取組というのがなかなかここには上がってこない
と思っている。民間は民間で独自に皆さんいろいろ食育をやっているが、
圧倒的に相模原市は民間の保育園・認定こども園が多いので、そちらでど
ういう取組をしているのかもまた、一つ取り上げていただくと良いのでは
ないかと思った。いずれにしろ、保育園でよく食べる子は、病気もしない
し本当に元気である。そういう意味では、食の取組が、すなわち健康につ
ながるといことで、今後ますますの発展を祈念したい。

(落合委員) 私たちも JA 相模原として農業を通じた食農教育というものを、かなり
やって来ている。青年部などの組織の中でもやっているが、個人でやって
いる組合員には、農協として助成金を出している。お金の問題ではないが、
こういうことを一生懸命取り組んでいる方に、どこかでその取組を認め、
PR するというようなことをすると、これからも一生懸命頑張ってくれる
のではないのかという気がするので、そういう取組をここへとりまとめる
のは難しいとは思いますが、その取組のときに、参加した人たちにそのあたり
の話をして、賛辞を送ってあげたいという気がする。

(唐澤委員) 神奈川つくい農業協同組合としては、地元の方は様々な農業をされてい
るが、相模原市内で、市民の方のための食料を生産している方と携わって
いるというのが私たちの特徴だと思っている。今お話のあった通り学校農
園活動の支援や、学校給食への食材の供給などに携わらせていただいでい
る。今回この食育推進委員会のメンバーとなり、改めて様々な取組をする
ことによって、地元の農業が活性化していけば一番良いと思っている。市
民の方たちも、自分たちが食べるものについては、顔の見える野菜や
農産物を口にできるような、そういう環境になっていけば、おのずと食農
教育につながるものになるであろうと思っている。今回この組織はここで
一旦、違う形になるが携われたことに対しては非常に感謝している。また
今後も食農教育が発展するようにつくい農協としても伝えていきたい。

(今委員) 今日改めてこのシートを見て、こんなに多くの事業があるんだというこ
とをすごく感じた。それを案外知らなかったが、こうやって見てみると興
味があるものが多いので、やはり見やすいというか、市民に届くような形
になっていくことと、あと先ほどのいろんな関係課での横の繋がりをこれ
から期待したいと思う。

この会議が終わった後、どのようなことが発表されたかも気づかないな
んてことがないように、自分も注意をしていきたいと思っているので、発
信の方をよろしく願いたい。

(原田副会長) 医師の立場から言うと食というのは健康に繋がっているが、今回この
食育という会議の中で、食というのは豊かな人間性や、大切な文化の継承

にも寄与しているということを感じた。その中で、これだけ多くの事業を
実際運営していく、素晴らしい相模原市の状況になっている。評価を見ても、
今まで新型コロナウイルス感染症の影響で大分うまくいかなかった部分
が、今回の評価では立ち直ってきている姿が見えているので、頑張っ
て良い評価になるようにぜひよろしくお願ひしたい。

(堤会長) 皆様と同様に安全・安心な食を求めて、安全というのは害のないもの
という意味もあると思うが、安心となるとやはり人との関わりなどが関係す
るので、食育の優先度もクローズアップされると思う。この多くの事業の
中で、安全・安心な食を求めて相模原市が一丸となって前に進んでいる様
子がこれまでの会議を通してわかったので、大変ありがたいと思っている。

そして本日の報告にもあったように PDCA を常に回していくことが大切
である。この評価をするときに、年度末にどうだったかということだけで
はなく、事業担当者が常にこの PDCA を回すことを意識すると、より PDCA
が円滑に回っていくのではないかと思う。年度末の評価時だけではなく、
少し負担が増えてしまうかもしれないが、年度の途中でも、例えば「どん
な感じですか」と進捗状況を確認することで、PDCA がしっかり回ってい
るかを、各団体や各事業担当者にも意識してもらえると、より食育が進ん
でいくのではないかと感じた。委員の皆様と一緒に委員会を運営できたこ
とを大変ありがたく思っている。

(事務局) 本委員会は平成 21 年の 7 月に第 1 回目を開催し、以降 14 年間にわたり
委員の皆様にお力添えをいただきながら、本市の食育を進めてきた。
この期間の中では、食育推進計画は 2 回改定があり、現在第 3 次の計画期
間である。

次期の第 4 次の計画については保健医療計画・歯と口腔の健康づくり推
進計画と合体という形になる。また、3 つの審議会が 1 つになって来年度
以降進行していくが、食育については非常に分野が広く、保健所の仕事だ
けでは立ち行かないため、保健医療関係、農業関係、乳幼児の保育・教育、
児童・生徒の教育等に携わる方々のご協力・連携があつて初めて進められ
るものと思っている。

令和 6 年度以降の新しい体制の中でも、各団体の方々には引き続きご協
力をいただきながら、今後も食育をしっかり進めて参りたいと考えてい
る。

令和5年度 第3回相模原市食育推進委員会名簿

団体名等	氏名	出欠
(一社)相模原市医師会	原田 工	出
(公社)相模原市歯科医師会	松井 光平	出
学識経験者(相模女子大学)	堤 ちはる	出
学識経験者(東京家政学院大学)	田中 弘之	出
相模原市立小中学校長会	浅倉 勲	欠
(一社)相模原市幼稚園・認定こども園協会	平本 大輔	出
相模原市食生活改善推進団体わかな会	江藤 潤子	出
相模原市栄養士会	佐藤 美登利	出
相模原市健康づくり普及員連絡会	長瀬 嘉子	出
相模原市私立保育園・認定こども園園長会	藤木 総宣	出
相模原市農業協同組合	落合 幸男	出
神奈川つくい農業協同組合	唐澤 由紀生	出
相模原市立小中学校PTA連絡協議会	樋口 陽平	欠
相模原食品衛生協会	森 健太郎	欠
さがみはら消費者の会	西田 玲子	欠
公募委員	北島 みどり	欠
公募委員	今 美和子	出
公募委員	中村 道子	出